



あとがき

著者	ヴァンバーレン ルート
雑誌名	筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集
巻	34
発行年	2019-03-26
URL	http://hdl.handle.net/2241/00154900

あ と が き

「平成最後の〇〇」がキーワードとなった2018年だが、本論集は発行年を和暦ではなく、西暦で表示していることもあり、影響を受けることなく発行を続ける予定である。しかし、34号から遡ってみると誌名の変更などを通して歴史が感じられる。1号(1985年)・2号(1986年)は『筑波大学留学生教育センター日本語論集』で、3号(1987年)から30号(2015年)にかけて『筑波大学留学生センター日本語教育論集』となり、31号から現行の『筑波大学グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育論集』に至る。昭和60年に刊行され、直ちに平成に入った。その後、「留学生センター」が「CEGLOC」へと移行した時期を経験してきた。そして現在、次の元号が目の前にあるとともに留学生の多様化にも直面しているのが現状である。

本論集の2号にプレースメント・テストに関する論文が掲載された酒井たか子教授が長年にわたり本センターの日本語教育を支えてきたが、本年度で定年退職を迎える。当初からプレースメント・テストの重要性を感じ研究を続け、その経緯および現状を本号の寄稿に寄せていただいた。今後も TESTING や本センターについて助言をいただきたくも、今後の人生を楽しく歩んでくださるようお願いしたい。

本号には他に研究ノート1本、報告3本が掲載されている。例年より多少本数が少ないものの、研究の高品質および教育・研究への熱心がうかがえるものとなっている。投稿者の方々、そして査読者の方々に感謝を申し上げたい。皆様のご協力なくしては本論集が成り立たないのである。本号の発行とともに新年度への準備が進められている。次号への投稿とつながる活気のある年度になると期待したい。

2019年3月

グローバルコミュニケーション教育センター日本語教育部門
日本語教育論集編集委員長
Vanbaelen Ruth